

Title	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究 第7号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 7 p.117-p.117
Issue Date	2011-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25063
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『MHB 研究』第7号をようやくお届けすることができました。本号は招待論文として中島和子先生の「継承語教育文献データベース構築」と湯川笑子先生の「バイリンガル教育のためのリサーチメソッド」という啓蒙的な要素の強いものを2本掲載しました。MHB 研究会は「母語・継承語・バイリンガル教育」というこれまで深く扱われてこなかった、しかし今日的には非常に重要な分野について先駆的な取り組みをしてきたと自負していますが、本紀要は研究を極める学術論文だけでなく、この分野の研究のすそ野を拡げ、かつこれからの研究者を育てるための教育的効果をもった論文をも奨励しています。その意味でこの2本の論文は大きな貢献を果たしていると思います。

本号には他に3本の研究論文を掲載しました。例年のことですが、執筆者と査読者、編集委員とのやり取りを重ねることで質の高い論文になっていると思います。こうしたやり取りこそ、研究者を育て、質の高い研究を実現するという本研究会の目的に適った活動だと信じています。活動報告には夏の研究大会とそれに引き続いて開催された継承語教師養成ワークショップ、秋のリサーチメソッド学習会、年が明けて3月の国際母語デー、ろう教育に関する講演会など、多岐にわたる活動が記されています。すべての活動において多くの参加者を集めることができ、また場所も東京だけでなく京都、大阪と各地で開催され、広がりをもつことができました。紀要の発行については例年通り津田印刷の津田絢子さんに多大なご協力をいただきました。3月11日に起こった東日本大震災により印刷作業に影響が出るということもありましたが、こうして発行に至ったことを感謝いたします。

編集委員として今号から担当することとなりましたが、勝手が分からないことも多く、前号からご担当の清田淳子編集委員から多くのアドバイス、お助けをいただき、ようやく乗り越えることができました。編集作業にたずさわってみて初めてどれほどの大変な作業をこれまでの編集委員の方々がなされていたのかを身にしみて感じました。本研究会の活動はこうした多くの方々の奉仕の心と高い志によって実現していることを今更ながら思いたりました。次号も引き続き編集を担当しますが、今号に劣らぬ意欲的な研究発表の場となるよう努めていきたいと思っています。二年間編集にあたって下さった清田編集委員は今号で任を終えられます。本当にご苦労さまでした。次号は原瑞穂理事が編集担当に加わり進めることになりました。

MHB研究会企画担当理事 編集委員 友沢 昭江

母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究 第7号

2011年3月31日 発行©

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学 言語教育研究所内

Tel. 042-797-2016 Fax. 042-797-1887

URL. <http://www.mhb.jp> (ホームページ)

印刷所：有限会社 津田印刷 〒606-0002 京都市左京区岩倉中大鷲町14